

この物語に登場する人・モノ・場所

モドキ

第5章（空の章）では、前章に引き続き二人のモドキが登場しています。二人のモドキは、川越市で里神楽に取り組んでおられる「梅鉢会」の神楽師・白石信人さんと村田孝祐さんが演じています。



[里神楽梅鉢会](#) [Instagram](#) [Facebook](#)

川越里神楽

石舞台の上で神楽を演じてくださったのは、梅鉢会のみなさまです。当日は、お囃子に合わせた神様とモドキの舞いや、普段は見られないチェンバロの演奏に合わせた演舞も披露していただきました。

ロケ地

物語のフィナーレは、熊谷市にある「妻沼聖天山歓喜院」の敷地内で撮影されました。歓喜院の本殿である「聖天堂」は、建造物としては埼玉県内唯一の国宝として知られています。周囲の町並みから隔離され、歴史と静寂に包まれた凜とした空間で撮影は行われました。

[妻沼聖天山](#)



チェンバロ

石舞台の上に置かれた、ピアノのような楽器。新座市にある国内有数のチェンバロ工房「久保田チェンバロ工房」で製作されたチェンバロです。演奏してくださったのは、チェンバロ奏者の廣澤麻美さん。日本の文化と建造物、中世ヨーロッパの古楽器が交わった不思議な空気が現場を包み込みました。

[久保田チェンバロ工房](#) [X \(旧Twitter\)](#)



ヤギ



モドキと再会したヤギは、熊谷市のソーシャルファーム「埼玉福興」で飼われている子どものヤギさんです。撮影開始直後に比べ、すっかり大きくなりました。

撮影現場までの運搬や現場でのお世話は、毛呂山町の「ヤギワールド」が担当していただきました。

[埼玉福興 \(株\)](#) [X \(Twitter\)](#)

身につけているモノ

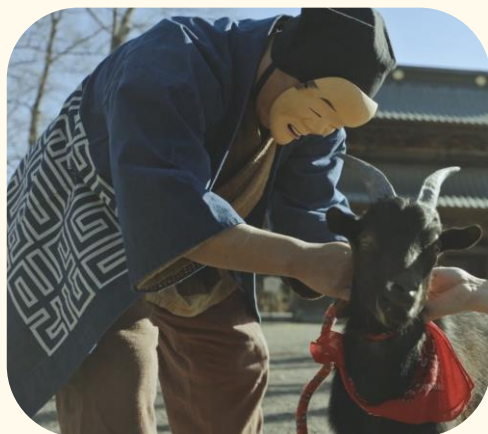
モドキが履いている**足袋**は、かつて「日本一の足袋のまち」と呼ばれた行田市で足袋作りを続けている「イサミコーポレーション」による「イサミタビ」です。ひとつひとつ丁寧に手作りで作られています。



[\(株\) イサミコーポレーション](#)

[Instagram](#)

[X \(旧Twitter\)](#)



モドキが羽織っている**半纏**は、八潮市の「相澤染工場」で、伝統的技法によって作られた藍染の半纏です。

[\(有\) 相澤染工場](#)

[Instagram](#)

[X \(旧Twitter\)](#)

